発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人　杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946—005

公判お知らせ

三池大災害裁判公判
五月三十一日午後一時から、福岡地方裁判所で。(43回)

坑内火災裁判公判
六月十日午後一時から、同右裁判所で。(33回)

第53回メーデー

▼大牟田地区メーデー
五月一日(土)午前十時開会(雨天決行)。
場所＝笹林公園広場。前夜祭は三十日午後五時から市民会館で。

▼荒尾地区メーデー
五月一日(土)午前十時開会(雨天決行)。
場所＝四山児童公園。前夜祭は三十日午後五時半から公会堂で。

82春闘

炭労春闘、いよいよヤマ場

低額回答許さず前進を

八二春闘は、十三日から十六日にかけての官・民総ぐるみの集中決戦を前に、金属労協(IMF・JC)への回答が出され、昨年実績を下まわる額で例年のように〝一発回答・妥結〟。私鉄は一次回答を拒否して上積みを実現、ストライキを回避。官公労関係は十三日回答が出され、公労委仲裁に持ち込みました。炭労は九日、第一回の団体交渉を行ないましたが、さらに十四日と十五日に団体交渉を行い、早期に有額回答を出すよう迫りました。

炭労春闘、第一回交渉

四月八日炭労は拡大中闘委員会を開き、四社交渉の窓口問題が決着したことによって、大会決定どおり闘いを進めることを確認し、九日石炭協会との第一回交渉に臨みました。

この交渉では、交渉団のメンバーと交渉体制を確認しました。

また冒頭、野呂委員長から「会社側が過去の交渉のように、今回もスト直前でなければ有額回答を出さないという、旧態いぜんたる姿勢であれば、われわれとしても厳しい態度で対応する」と申し入れました。

これに対し小泉交渉委員長(三菱)は、「従来の交渉については反省している。今年の交渉は非常にむつかしい状況ではあるが、最大限の努力をする」と述べました。

続いて会社側より「石炭をとりまく情勢と経営の現状」「大手五社の経理事情について」の説明があり、第一回交渉を終りました。

十四日の第二回交渉では有額回答はなく、「鋭意検討中」とだけ回答しました。交渉は十五日、十七日と続けられます。

春闘全体の流れから見れば、ひと足遅れた闘いですが、地下労働者にふさわしい賃金をめざし、他産業との格差を埋めるためには、要求の満額獲得をぜひとも実現しなければなりません。

春闘は集中決戦へ

八二春闘は労働四団体の合意によって、二万円の賃金と一兆円減税の実現をめざして、いま総ぐるみの闘いを進めています。

JC路線、管理春闘といわれるなかで要求額にも不満がありますが、せめて満額はほしいというのが現場の労働者の率直な声です。公共料金の値上げや物価の上昇率を見ても、最低九パーセント以上の賃上げがなければ生活が維持できないのです。

しかし資本側は、労働者の切実な要求を無視して、八日JCに回答した内容は、まさしく管理春闘といわれるもので、私鉄(九日回答)もほぼ同様の内容となっています。

JC関係は、いずれも妥結の方向で、私鉄は実力行使を背景に低額回答打破をめざして闘い、若干の上積みをして十二日夜妥結しました。

要求と回答

鉄鋼大手五社要求　一七、二〇〇円。回答一三、一〇〇円(六・三六パーセント)

電機大手五社要求　一六、五八六円。回答一三、〇〇〇円前後(七・四パーセント)

造船大手七社要求　一七、二〇〇円。回答一三、一〇〇円(六・六四パーセント)

自動車要求　一六、二〇〇円。回答一三、五〇〇円(七パーセント)

私鉄大手十三社要求　二〇、〇〇〇円。第二次回答一四、五〇〇円(七・一一パーセント)

三公社五現業　回答　平均六、五五四円(定昇込み、単純平均)(三・三パーセント)

また公労協は、公労委の調停に持ち込み、大詰めの攻防が展開されましたが、ストを回避しました。

解説　IMF・JC

国際金属労連日本協議会の略称で、国際自由労連の産業別組織である国際金属労連の日本支部。鉄鋼労連、電機労連、自動車、総連造船重機労連、全金同盟、全機金など金属関係の右翼的な労働組合が参加しています。

一九六四年にアメリカのAFL・CIOに支援されて結成され反共、親米、労資協調主義の立場をとっており、同盟とともに〝経済整合性論〟で賃上げ自粛を主張〝ストなし・一発回答〟で、春闘相場を低くおさえる役割を果たしてきました。

春闘相場づくりが、このような形で行われ、大きなカベになっていることに強い批判があります。

57年上期　生産会議開く

四月十日、五十七年度上期の生産会議が開かれました。

同会議では、会社側から五十六年下期の出炭実績、掘進実績、五十七年上期の出炭計画、掘進計画、人員計画、三池炭の需給状況、貯炭、請負人員、保安実績などについて説明があり、組合側からは説明に対する質問を行なうとともに、八項目にわたって具体的な回答を求めました。

出炭実績では、五十六年下期の三川鉱の減産(二二四、三七四トン)によって鉱業所全体で三八、四八八トンの減産となっており、五十七年上期の出炭計画では四山鉱で平均日産六、八三〇トン、期産一、〇一七、〇〇〇トン、三川鉱で平均日産五、七四〇トン、期算で八五五、二〇〇トン、有明鉱で平均日産四、四一〇トン、期算で六五七、八〇〇トン、鉱業所計では平均日産一六、九八〇トン、期算で二、五三〇、〇〇〇トンとなっています。

これに対し、人員計画では従来通りの成り行き人員とし、四山鉱で三十五人、有明鉱で十六人、本所で九人が新規採用が予定されていますが、期計では四十三人の減員で期末の在籍人員は、四、一〇一人となります。組合側からは、長期の生産・人員計画の提出をはじめ、硬捨て計画、大牟田再開発問題、住宅政策、自家発電所建設などについてただしました。

岩崎久子さんが死去

山鹿市の保利病院にかねてより入院加療中の、遺族会の岩崎久子さんが肺炎を併発、三月二十九日午後五時三十五分逝去されました。心から哀悼の意を表します。

(関連記事を四面に掲載)

春闘決起集会ひらく　大牟田地区

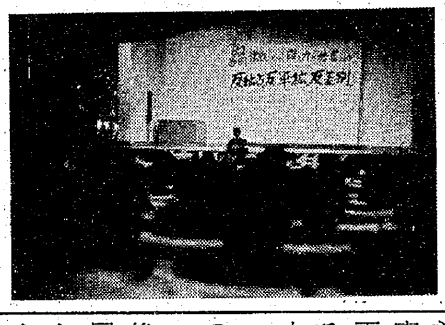
四月七日午後五時から、大牟田市役所前で大牟田地区春闘勝利決起集会が開かれました。

集会では、まず城之内春闘共闘会議議長が「内需拡大のために賃上げを、雇用促進と反戦・平和を」とあいさつ。さらに蓮尾社会党総支部長、下川共産党県委員がそれぞれ連帯のあいさつを送りました。さらに西鉄・原青年部長、国労・塚本副支部長、市職・大迫青年部長が決意表明を行ないました。

荒尾でも決起集会

四月六日午後五時半から、荒尾市公会堂で開かれました。

集会では、式島春闘共闘会議議長が「八二春闘の決戦段階にむけて精いっぱいたたかおう」とあいさつ。つづいて酒井県議会議員が激励のあいさつ。小早川県春闘共闘副議長が春闘情勢報告に立ち、内藤平和タクシー組合長、岩中国労執行委員、坂広市職労代表(市民病院)、坂口全国一般全日自労県本部書記長、野村地評婦人部長らが決意表明を行いました。



地底

▼…実質可処分所得は二年連続マイナス。生活はまさにピンチというのに、またまた頭の痛い値上げの春を迎えた。皮切りは米価。平均三・九パーセント。ガソリンも上がる。国鉄も五年連続で平均六・一パーセントの値上げ。大牟田—荒尾間が百二十円となる。

▼…そんな島があったのか、と首をかしげたフォークランド諸島。アルゼンチンが〝占領〟したのだが、百五十年前にイギリスが住民を追い出して領有を宣言。アルゼンチンは「主権の行使」だと主張する。怒ったサッチャーは軍事行動を表明、大艦隊を派遣へ。両国対立の裏には石油資源をめぐる思惑もあるが、その解決には武力は無用。交渉あるのみだ。

▼…一九七〇年七月、東京地裁の杉本判決は「検定不合格は違憲・違法」と明快に判決した。五年後東京高裁は憲法判断を回避、今回は長い時間をかけて「差し戻し」た。すでに十五年を過ぎ、あと何年かかるか判らない。問題は教科書である。文部省の恣意でゆがめられてはならないのである。

▼…十日北炭夕張新鉱で合同葬が行なわれた。百六十三日目にすべて収容されたが、遺体は無惨なものだった。「なぜ、こうも苦しめられなければならないのか」と何度叫べばいいのか。通産省の新エネルギー需給見通しでは、二千万トンを掲げているが、労働者を犠牲にした増産は絶対にあってはならぬ。死者の怨念は地底を這い闇の地獄をさまよっている。

▼…「立ちはだかるJCの壁」「必死の上乗せ努力」「危機感深まる労働界」「力関係では経営側に軍配」「内需拡大には不十分」「強まる管理春闘」「労働側八連敗」…ETC。こう書かれるとやりきれぬ。これで「労戦統一」とは組合員も黙ってはいまい。